

本市出身の2選手が競泳の日本代表選手として出場します



井上舞美

競泳混合400mリレー
いのうえ まみさん

●パラ水泳について●

小学2年生からスイミングの選手コースで頑張ってきました。競い合って勝つのがうれしく、負けても泳げるのが楽しかった。

イトマン大津でインストラクターをしながら、パラリンピックをずっと目指してきて、仲間やライバルと切磋琢磨してきました。

●東京2020パラリンピックへの抱負●

2年近く自己ベストの更新ができない苦しい時期がありました。新型コロナウイルス感染症の影響で練習ができず、取り戻すのがとても大変だったこともありました。

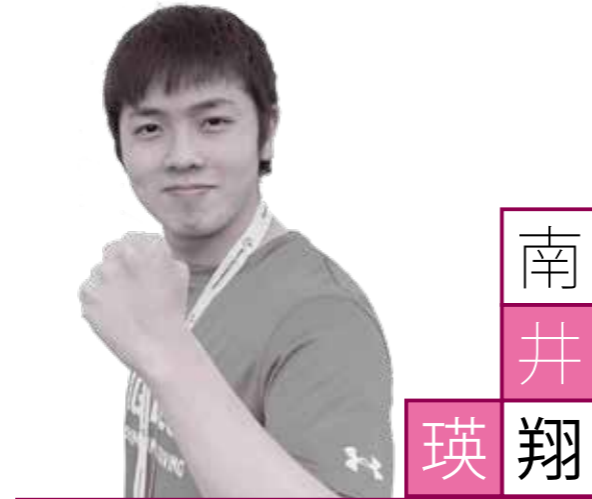
パラ代表に決まって、「おめでとう」「頑張ってるね」「テレビで見るよ」といろいろな人に声を掛けてもらいました。何度も国際大会に出場したけれど、応援も期待も重圧も、東京2020パラリンピックはほかの大会とは違うのだなと感じています。夢を叶えて臨む大会では、決勝進出、メダルを目指します。



●皆さんへのメッセージ●

今回は家族も現地で観戦できないかもしれません。「努力は必ず報われる」と考えて練習を頑張ってきました。諦めずに続けてきて夢を叶え、パラ代表になれました。

両親や仲間、応援してくれる大勢の人たちのためにも頑張ります。



南井瑛翔

競泳男子400mメドレーリレー
みない あきとさん

●パラ水泳について●

5歳から水泳を始めて中学3年生の時、水泳部の顧問の先生にパラ水泳競技のことを教えてもらいました。泳ぐたびに自己ベストを更新して、世界の舞台が視野に入るようになり、2024年のパリパラリンピックを目標にしてきました。現在は実家を離れて、近畿大学で競泳の練習を重ねています。

●東京2020パラリンピックへの抱負●

新型コロナウイルス感染症のために東京2020が1年延期になったことが、逆に私にはチャンスになりました。選考タイムをクリアして初の国際大会も経験し、7月2日に日本代表決定の連絡が入りました。守山に住む両親から「おめでとう」のLINEをもらいました。

世界ランキング1位のマキシム・クライパークさん(ウクライナ代表)に憧れ、目標にしています。パラリンピックでは自己ベストの更新と決勝進出を目指して、精一杯頑張ろうと思います。



●皆さんへのメッセージ●

新型コロナウイルス感染症の影響で対策することも多くあり、皆さんも不安を感じていると思います。少しでも皆さんを元気づけられたら、と思って泳ぐので画面越しにはなりますが、応援お願いします。

東京2020
パラリンピック競技大会
8月24日(火)~9月5日(日)
いよいよ開幕

開幕間近の東京2020パラリンピック競技大会——。ホストタウンに登録されているトルコ共和国の「ゴールボール」「視覚障害者柔道」の選手団が合宿のため来市しました。また、競泳では本市出身の若きアスリート2人が日本代表に選出され、世界の晴れ舞台に挑みます。

本市はトルコ共和国のホストタウンに登録されています



上・右下=トルコ・パラスポーツ応援イベント(令和2年)
左下=公民館講座・トルコの朝食(令和元年)

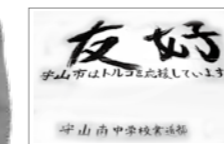
令和元年にトルコ共和国のホストタウンに登録された本市では、トルコ共和国とパラスポーツへの理解を深めてもらおうと、さまざまな取り組みを行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市民との交流はできなくなりましたが、ゴールボール20人、視覚障害者柔道10人のトルコ代表選手団が、8月10日から20日まで3つの会場でパラリンピック本番に向け練習に励んでいます。

守山南中学校では、コロナ禍でも3密を避けてトルコ代表選手を応援しようと、練習会場に掲げる横断幕を書道部が制作。吹奏楽部はリモート演奏会で歓迎と激励の気持ちを伝えることにしています。両部長から応援のメッセージをいただきました。

「書」で応援を伝えたい

書道部 小嶋 彩月さん

書の横断幕3枚を練習会場に掲げてもらいました。視覚障害のトルコ代表選手に、横断幕は見えないかもしれないけれど、守山にも「応援している人はいっぱいいます」と伝わるよう、13人の部員が心を込めて書きました。パラリンピックでは、日本の選手もトルコの選手も応援したいと思います。



心を合わせた演奏で応援します

吹奏楽部 梶原 百賀さん

トルコ代表選手へパラリンピック本番に向けて、歓迎と激励の意味を込めてリモート演奏を届ける予定です。97人の部員が心を合わせて、画面越しでも応援が伝わるよう演奏をしようと練習しています。パラリンピックが成功して、パラスポーツが広がってくれたら良いと思います。

